

行政と現場の連携を強化し、「子どもたちのため」の施策を推進

群馬県 高崎市教育委員会 教育長 飯野 眞幸

次期学習指導要領に先駆けて小学校英語の教科化を実現するなど、先進的な教育施策を展開している群馬県高崎市。学校現場や地域との連携を始めとする教育行政のポイントを、同市の飯野眞幸教育長に聞きました。

いいの・まさき 群馬県立高校教諭、同県教育委員会高校教育課長、同県総合教育センター所長、同県立前橋女子高校校長等を経て、2011年度から現職。

学力向上は、いじめゼロの学校づくりから

教育活動の主役は子どもであり、常に子どもの目線に立って進めることにこだわりたい——本市では、そうした思いを込めた「すべては子どもたちのために～EVERY CHILD MATTERS～」をスローガンに掲げ、教育施策の根幹に据えています。

大前提として最も重視しているのは、子どもが安心して学校生活を送ることができる環境の整備です。子ども同士が温かい人間関係を築く場が確保されてこそ、教員も落ち着いて教育活動に力を発揮することができ、それが確かな学力の向上につながると考えるからです。

そこで、いじめの根絶を最重要課題として位置づけ、2012年度、「学校におけるいじめ防止プログラム」を策定しました。同プログラムでは、いじめの「防止」に焦点をあてている点が特徴で、市長を筆頭に、市議会や警察、保護者なども連携して全市を挙げて取り組んでいます。

私は毎年、すべての市立小・中学校を訪問して校内の様子を見て回っ

ていますが、どの学校でも、友だちや教員と元気よくあいさつをしたり、授業に生き生きと取り組んだりする子どもが目立ち、明るく、温かい雰囲気があります。子ども同士や子どもと教員が信頼関係で結ばれていることの表れでしょう。教員の指導が行き届く環境が着実に根づいていると感じています。

全小・中学校にALT*が常駐9年間での英語教育を推進

学力向上対策について、本市には2つの柱があります。

1つは、英語教育の早期展開です。次期学習指導要領を視野に、2016年度から、すべての市立小学校が文部科学省「教育課程特例校」の指定を受け、1～4年生で週1コマの「外国語活動」、5～6年生で週2コマの「英語」と、全学年で英語教育を推進しています。

ネイティブの発音に触れることは、英語の学習の大きなポイントとなります。小学1年生から「外国語活動」を導入するにあたっては、低年齢だからこそネイティブの発音に触れる機会を大切にすべきだと考えました。そこで

力を入れたのが、ALTの増員です。

市長の全面的な支援の下、2016、2017年度の2年間で、全市立小・中学校にALTが最低1人ずつ常駐できる体制を整えました。加えて、力のあるALTには、特別非常勤講師としてALTの取りまとめをお願いしたり、学校規模によっては複数体制にしたりして、ALT同士のコミュニケーションを地域ぐるみで活性化させ、受け入れ体制を充実させました。その結果、ALTの意識が高まって教育活動が一層充実し、子どもたちの学びも大きく実りあるものになっています。

ALTは現在、小学校の「外国語活動」「英語」の全授業に参加し、基本的には、担任がT1、ALTがT2となるチーム・ティーチングを行っています。教育委員会では、担任の負担を減らし、また、担任とALTがしっかり目線を合わせて指導できるよう、全授業時数分の指導案の日本語版と英語版の両方を作成しました。今後、子どもの実態に応じて定期的に改訂していく予定です。

ALTが常駐するようになってからは、教員とALTが子どもの変容や成長を話題にし、今後の指導について

* Assistant Language Teacher の略で、外国語指導助手のこと。小・中・高校などの英語の授業で日本人教員を補助する。



話し合っている姿を、学校を訪問する中でしばしば目にするようになりました。ALTと教員の連携が強化されていると感じます。

地域と連携した学習支援で、 子どもの算数への興味を醸成

もう1つの柱は、小・中学生を対象とした算数・数学・英語の学習支援です。

小学校では2014年度から、地域の高校生や大学生、退職した教員らが講師となり、放課後や土曜日の週1～2回、算数を中心とする特別授業を、希望者を対象に行っています。プログラムは各校が子どもの実態に応じて作成し、教材は市が支給しています。小学校で算数が嫌いになってしまうと、中学校・高校段階での数学の成績低迷の原因となり、ひいては生徒の進路選択を左右することにもなりかねません。そこで、小学

校段階における学習支援を充実させ、子どもの算数への興味や基礎学力を高めようと考えたのです。

中学生向けの取り組みでは、成績層別の支援に力を注いでいます。その1つとして、毎週日曜日、市内9か所の公民館に「中学生休日学習相談ステーション」を開設しています。数学や英語の学習の仕方について、中学生が大学生からマンツーマンで無料で助言を受けることが可能です。ほかにも、発展的な問題を通して、さらなる高みを目指す意欲を養ってほしいと思い、中学校や高校、大学の教員が講師となる月2回の「数学ジュニアオリンピック挑戦講座」を、数学が好きな生徒を対象に行っています。

そうした一連の学習支援は、学校のみでは実現不可能であり、地域の理解と協力を得ることの大切さを改めて実感しています。

現場の課題に即応した 施策を展開していきたい

今後の社会では、身につけた知識を活用する資質・能力がますます求められます。例えば、英語が話せるだけではなく、英語を用いて考えを深め、表現できるようになる必要があるでしょう。そうした力の定着度を定期的に把握して先生方の授業改善にも役立てるために、今後はアセスメントをより一層活用していく方針です。

教育活動は、社会の変化に応じて常に進化させていくべきですが、それが「子どもたちのために」あることを忘れてはなりません。そのため、教育行政としては、学校訪問などを通して、現場の実態に目を向ける責任があります。そうして把握した現場の求めを、施策として具体化するために、市長部局との連携も一層密に図っていきたいと考えています。



高崎市 プロフィール

◎群馬県の中西部に位置する。北関東における商業・交通の要衝として発展し、市内には上越・北陸新幹線を始めとするJRや私鉄、高速自動車道などが集中。7～8世紀に建立された3つの石碑「上野三碑」など、歴史的・文化的な遺産を有する。

人口 約37万4,000人 面積 459.16km² 市立学校数 小学校:58校、中学校:25校 特別支援学校:1校 児童・生徒数 約3万人 電話 027-321-1291 URL <http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2013121200400/>